

主将「冬の目標できた」

震災被害を受けた岩手・大槌高野球部

試合納めで光星と対戦

八戸



光星高との練習試合で貴重な1点のホームを踏む大槌高の選手（右）11月6日、光星高野球場

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県立大槌高校硬式野球部は6日、八戸市の光星高校野球場で、今季の試合納めとして、秋の東北王者の光星などと練習試合を行った。光星との対戦は大敗となったが、大槌の岡谷惇喜主将は「大変なシーズンだったけれど、最後は全国レベルを経験し、良い形で締めくくることができた」と充実した表情だった。

昨年、両校が練習試合をした縁から実現。

この日は、青森県立黒石商業高校も交えて試

合を行った。

光星―大槌戦は、先発にレギュラー陣を並べた光星が本領を発揮し、2本塁打などで21点を奪った。一方、12人で臨んだ大槌の反撃は、四球押し出しの1点のみとなった。

試合後は、光星ナイの父母が用意した豚汁に舌鼓を打ちながら交流。大槌ナイは、

光星の普段の練習内容などを、興味深そうに質問していた。

岡谷主将は「レベルの高さをじかに感じ、

冬場の明確な目標ができた。この経験を、必ず来年につなげる」と収穫を口にした。光星の田村龍弘主将は「全力で戦った。僕たちから何か学んでもらうことがあればうれしい」と話していた。